

令和3年〇月〇日

〇〇〇教育委員会教育長
〇〇 〇〇 様

〇 〇 〇 〇 (提出者の氏名)

意見書 (マスク着用について)

昨年からのコロナウイルス騒動でマスクが常用されることが当たり前になった現実に子ども達の健康が脅かされていると感じ、自分なりに調べてみました。思っているよりも弊害が大きいと思うので別紙資料にまとめてみました。ご一読いただき、今後の教育にとって何が最善かご検討頂けると幸いです。

記

1 マスクの限定的効果

- ・花粉の侵入を止めることは可能ですが、ウイルスのサイズは網目を素通りします。
- ・唾液を飛ばさない。病状がある人が他に感染させないために有効。
- ・無症状の人の飛沫から感染させるだけのウイルスが排出されているという十分なデータはない。

2 マスクのリスク

- ・酸素欠乏の急性症状として、頭痛、眠気、めまい、集中困難、反応遅延
- ・長期的な弊害として、脳細胞の不可逆的ダメージ (失われた神経細胞は再生しない)、不眠、うつ症状、肺機能障害、免疫力の低下、
- ・不潔なマスクによる呼吸器の疾患。
- ・マスクの素材による化学物質の悪影響。
- ・コミュニケーションの阻害 (人格形成の時期に健全な成長発達が阻害)
- ・集団に対してマスク着用を促すとマスクのできない子ども達に配慮が欠ける。
- ・放熱の抑制 (これから暑さに向かう季節にマスクを着用することは熱中症の危険が増し、取返しのつかない事態になる可能性がある) など

以上、子どもの致死率ゼロの病気に対して、過剰な対策は必要ないと考えます。